

Top News!



年頭のご挨拶

平成21年1月吉日

初春のお喜びを申し上げます。

去る2007年6月、「日本酸化ストレス学会」発足時に理事長の任を受けてから1年半がたち、本会も漸く軌道に乗って参りました。会員各位におかれましては、日頃より種々ご協力賜りまして誠に有り難うございます。



昨年6月に開催いたしました「第61回日本酸化ストレス学会学術集会」では、合併後第1回目の記念すべき学術集会の会長を合わせて任命いただき、天候にも恵まれ、400名を超える参加者をお迎えし、成功裡に終了することが出来ました。関係各位のご協力に深く感謝いたします。

学会の参加者は、医学系に限らず、薬学、生化学、工学、農学系など広く酸素由来の活性種や各種フリーラジカルによる酸化ストレスに関する研究発表の場となっており、本学会の果たす役割の重要性は益々高まっており、新学会として発足したことにより、さらなる当該分野の発展に寄与出来るものと考えております。本学会への登録会員数も現在800名を超え、大変順調に組織化が進んでおり、酸化ストレス学研究への関心の深さを頼もしく感じております。

今後の益々の発展のため、関係各位のご協力を重ねてお願い申し上げます。

理事長 吉川敏一

2008年1月現在の役員は下記の通りです。

【役員】

理事長: 吉川敏一 副理事長: 小澤俊彦
理事: 赤池孝章・井上正康・内田浩二・内海英雄・浦野四郎・大澤俊彦・大和田滋・岡田 茂・小澤俊彦・金沢和樹・川西正祐・木村博人・桑原幹典・河野雅弘・嵯峨井勝・島崎弘幸・下川宏明・末松 誠・谷口直之・玉井 浩・寺尾純二・豊國伸哉・内藤裕二・長野哲雄・二木鋭雄・野口範子・福澤健治・馬嶋秀行・宮田直樹・山本順寛・吉川敏一(以上31名)

監事: 内海耕慥・森昭胤

幹事: 寺尾純二(会計)・内藤裕二(庶務)

名誉会員: 11名 功労会員: 7名 評議員: 125名

【事務局】

京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学内
〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上路梶井町455
TEL: 075-251-5937 FAX: 075-251-0710

E-mail: sfrj@koto.kpu-m.ac.jp

<http://www2.kpu-m.ac.jp/%7Eesun/oxidation/index.html>

※年次学術集会や、関連学会情報などを随時掲載しておりますので、ご参照下さい。

◇◇◇ 関連学会報告 ◇◇◇

第61回日本酸化ストレス学会学術集会

日時: 2008年6月19日(木)、20日(金)
会場: 国立京都国際会館(京都市左京区)
会長: 吉川敏一(京都府立医科大学 教授)

2008年6月19日(木)~20日(金)2日間、国立京都国際会館におきまして、「第61回日本酸化ストレス学会学術集会」が開催されました。新学会発足後、記念すべき第1回会長の本学 吉川敏一が仰せつかり、大変光栄に存じております。本会を開催するにあたり、会員の先生方の厚いご支援・ご指導を賜り、また、ご支援・ご参加いただきました多くの皆様に、あらためて厚く御礼申し上げます。

会期中は梅雨空も空け、会員・非会員合わせて400名を超える参加者をお迎えし、活発な意見交換の中、会期を無事成功裡に終了することが出来ました。

日本酸化ストレス学会は、我が国が誇る酸化ストレス学をリードしてきた、「日本過酸化脂質・フリーラジカル学会」ならびに「日本フリーラジカル学会」という2つの由緒正しい学会が合同して新たにスタートした学会であります。今回の学術集会では古い体質を捨て、これまで以上に常に革新を求める学会にしていきたいという願いと、これからの本学会の目覚ましい発展を祈念し、「鼓動: 新酸化ストレス学」というテーマを冠させていただきました。

特別講演 住本英樹教授(九州大学生体防衛研究所増殖分化制御学分野)による「活性酸素生成酵素Noxの調節機構」をはじめ、故吉村哲彦先生追悼講演、学会賞受賞講演、並びに8つのシンポジウムを特別プログラムとし、200題に近い演題応募をいただき、「活性酸素の発生と消去」、「ESRの新展開」、「疾患1-2」、「NO」、「シグナル伝達」、「酸化ストレスの評価」、「抗酸化物質」の8つのカテゴリで一般演題(およびポスター演題)を企画させていただくことができました。また、若手研究者の育成を目的とした学術奨励賞のセッションにも多数の演題応募をいただき感謝しております。また、シンポジウムでは各方面の専門家のみならず、情熱を持って研究を行ってられる若手研究者にも演題発表をしていただき、新たな視点での酸化ストレス学の方向性について活発な討論が行われました。それに加えてランチョンセミナー・イブニングセミナーの共催もいただき、皆様のご協力に魅力あるプログラムにして頂いたと考えております。

本学術集会において、志を同じくする者が一同に会し、昼間は学問に激論を戦わせ、夜は懇親会やイブニングセミナーなどの交流の場を通じて意見を交換し、この学会を中心に世界をリードする日本発の新・酸化ストレス学の鼓動が聞こえてきたような気がいたしました。実り多い会となりましたことを改めて深く感謝申し上げます。

(第61回日本酸化ストレス学会学術総会
事務局 内藤裕二・半田 修)



第23回日本酸化ストレス学会関東支部会

会期:平成20年12月13日(土)

開催地:神奈川歯科大学横浜研修センター

平成20年12月13日に第23回日本酸化ストレス学会関東支部会(支部会長桑原幹典北海道大学名誉教授,世話人代表小澤俊彦横浜薬科大学教授)が神奈川歯科大学横浜研修センターにて開催された。午前中にラウンドテーブルディスカッション:「抗酸化研究の新展開」として中西郁夫先生(放射線医学総合研究所),福原潔先生(国立医薬品食品衛生研究所),多田美香先生(東北大学未来科学技術共同研究センター)による新規抗酸化剤の開発のための最新の測定技術と創薬を目指した抗酸化物質デザインについての各先生の発表と会場とのディスカッションがなされた。続いて始まった話題提供においても例年以上の15題の演題がエントリーされ,関東支部会における伝統的な若手の積極的な発表に対する会場からの熱心なディスカッションが交わされた。また,話題提供の間に河野雅弘教授(東北大学未来科学技術共同研究センター)によるランチョンセミナー「活性酸素・フリーラジカル研究の産業応用」が行われ,先生の教室で展開されている活性酸素・フリーラジカル測定技術を根幹とした産業技術応用における多彩な研究結果について話がなされた。午後に入り話題提供が終了後,吉川敏一日本酸化ストレス学会理事長(京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学教授)より教育講演:「酸化ストレスと消化器疾患」が行われ,先生のこれまでの創設時の学会活動を含めた酸化ストレス研究者としての歩みと最先端の研究室における研究結果から,消化器疾患における酸化ストレス研究の重要性について話がなされ,若手研究者へのメッセージも披露された。プログラム終了後,横浜ベイシェラトンホテル5階 柏にて懇親会が開催され,日本酸化ストレス学会事務局長の内藤裕二先生も駆けつけられ宴に加わり,講演者の先生方,世話人の先生方,そして若手研究者による熱いディスカッションが懇親会後の同ホテルでの二次会まで続けられた。今後支部会としては若手話題提供者の優秀演題賞の創設など,次年度に開催される支部会(支部会長:筑波技術大学東西医学統合医療センター平山暁教授)に向け,さらなる支部会の活性化が期待されることである。

(日本酸化ストレス学会関東支部会事務局・
神奈川歯科大学学生体管理医学講座薬理学分野 李 昌一)

Lipid Peroxidation 2008

日時:2008年10月15日(水)~17日(金)

会場:軽井沢プリンスホテル(長野県北佐久郡)

2008年の10月15日から17日の3日間に渡り,軽井沢プリンスホテルでLipid Peroxidation 2008が開催された。この会は,名古屋大学生命農学研究科の内田浩二先生をChairとして,日本学術振興会のレドックス生命科学第170委員会ならびに従来から行われてきたHNE Clubの枠組みの中で,日本酸化ストレス学会その他多数のスポンサーのもとに行われたものである。幸いにもたいへんいい天気にも恵まれ,すばらしい施設もあってなの中で充実した講演と活発な議論が行われた。講演は41演題,ポスター発表は49演題であった。内容は,当然のことながら脂質過酸化が中心であったが,フリーラジカルの新規検出法から,過酸化脂質形成の化学反応,過酸化脂質修飾蛋白・ゲノムの網羅的探索から過酸化脂質のセンサーや受容体,抗酸化剤・抗酸化療法,新規メディエーターにいたるまで極めて多岐に渡った。圧巻は招待で2つの講演をこなした巨漢のCleveland Clinic, USA, Dr. Stanley L. Hazenであり, HDLの極めて精密な構造解析と新規Lipid Whiskerモデルには誰もが驚嘆した。残念ながらツアーの時間などはなかったが,ウェルカムパーティー,晩餐会ともに美酒ご馳走がたいへん充実しており,参加外国人達もたいへん喜んでおられた。今回の学会では若手の参加が多く認められ,また2年に1回の国際フリーラジカル会議以外ではあまり会うことのないブラジル,クロアチア,オーストラリアなどの研究者と交流を図れたことは大きな収穫であったと考えられる。特別講演は,産総研の二木鋭雄先生,ロンドン大学のProf. Derek W. Gilroyならびにカリフォルニア大学のProf. Joseph L. Witztumが行い, Hermann Esterbauer賞はノースダコタ大学のProf. Matthew J. Pickle, Sr.が受賞した。

(名古屋大学医学系研究科病理病態学講座 豊國 伸哉)

XIV Biennial Meeting of the Society for Free Radical Research International (SFRRI)

会期:2008年10月18-22日

開催地:中国,北京

Baolu Zhao教授を会長とする第14回SRFF国際会議が, Jiuhua Spa & Resortと称する北京郊外のConvention centerで開催されました。本Convention centerは広大な敷地を有し,そこには多数のホテルや会議場が備わっていることから,会議の開催地としては利便性の良い会場でした。空港からは少し離れていましたが,夜遅くまで無料のシャトルバスを用意いただき,主催者からの心遣いを感じられました。35カ国から516人の参加があり,5題のPlenary lecture, 146人の招待講演と295題のポスター発表がありました。とりわけ,血管におけるNOの生理機能解明の業績によりノーベル賞を受賞されたFerid Murad教授によるPlenary lectureがもたれたことは,学会にとって名誉な事でした。しかしながら, Lester Packer教授をはじめとする著名な予定演者に,病気等によるキャンセルが多かったのは大変残念でした。会の内容としては,講演のみならずポスター発表についても,そのプレゼンテーションや研究内容は回を重ねるごとに急速に高度になって来ているのを痛感しました。3年前に上海で開催されたSFRRI-Asiaの集会比べると日進月歩の勢いです。中国は,まだこうした国際会議の開催経験が浅いこともあり,抄録集の構成や会の運営にはまだまだしくした点はありませんでしたが,研究集会の本来の目的は果たせた会であったと感じています。

日本からは8人の招待講演がありましたが,この分野の貢献度からすると物足りなく,またポスター発表および参加者も隣国で開催された割には少ない会でした。原因としてはいろいろ考えられますが,中国をめぐるこの1年間の国際情勢が大きく影響したのは間違いないでしょう。また,国際会議の楽しみとも言える食事については,中華料理は日本人の口に合うとは言え,3食とも同じレストランで似たようなメニューでは,さすがに飽きると言った声も聞かれました。4日目にはCity tourがあり,バスを連ねて天安門広場・オリンピックスタジアムを見学し, Banquet会場へ。少数民族による舞踊を見学しながらの中華料理は,庶民の味といったところでしょうか。

最後に極めて個人的な経験を述べさせていただきます。私としては,共同研究の話がまとまる(残念ながら開催地の中国の研究者ではありませんが)など,参加前に期待していた以上に得る物がありました。しかしながら,そうした気分を台無しにする出来事が帰国後に待っていました。11月になって,宿泊の支払いに用いたクレジットカードの請求が届いたのですが,なんとホテルの宿泊代が二重に請求されていたのです。現地ではクレジットカードの取扱いに慣れていないことが見て取れたので心配はしていたのですが,その心配が現実のものとなってしまい残念です。このような不運な目に会ったのが私だけであることを願って報告を終わりたいと思います。

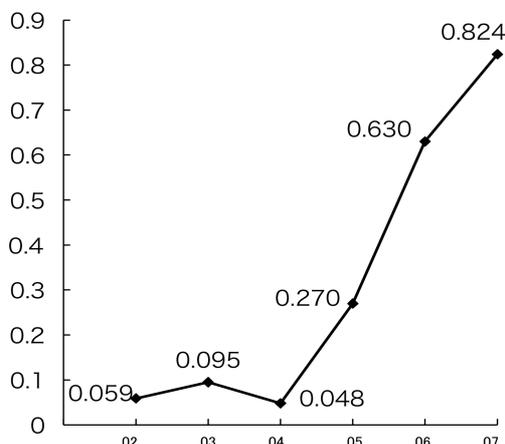
(山形大学生体分子機能学 藤井順逸)

JCBN(学会オフィシャルジャーナル)情報

(Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition)

現在のImpact Factor : 0.824

関係各位のご協力を得て,年々確実に上昇を続けております。投稿随時受付中。(オンライン:詳細最終頁参照)。



◇◇◇ SFRR関連各賞受賞者 ◇◇◇

2008年度 各賞受賞者

学会賞 長野 哲雄 先生
(東京大学大学院薬学系研究科・教授)

学術賞 今井 浩孝 先生
(北里大学薬学部衛生生化学・准教授)

学術奨励賞

藤原 範子(兵庫医科大学大学生化学講座)
小島 宏健(東京大学生物機能制御化合物ライブラリー機構)
永井 竜児(熊本大学大学院医学薬学研究部病態生化学分野)
柴田 貴広(名古屋大学大学院生命農学研究科)

第61回学術集会(2008年6月 京都開催)において、選考委員会による厳正な審査を経て、理事会・評議員会の承認の下、上記6名の受賞が決定いたしました。

受賞者の皆様の今後の益々のご活躍を祈念いたします。

本会では、今後も、これまでの功績を称え、また、今後の活躍を期待し、各種賞の授与を行う予定です。自薦他薦を問いませんので、是非多くのご応募・ご推薦お待ちしております。奨励賞応募については、年次学術集会のご案内をご参照下さい。

Young Investigator Award

日本酸化ストレス学会では、各SFRR Societyとの連携をとりつつ、若手研究者への奨励を積極的に行っております。その活動の一環として、関連学会における演題発表の中より、特に優秀と認められた若手研究者に対して、Young Investigator Awardを授与し、今後の益々の活躍を奨励しております。今年度の主な関連学会での受賞者は以下の通りです。受賞者の益々のご活躍を期待しております。

[14th SFRR International, Beijing October, 2008]

日本酸化ストレス学会よりは下記の4名が選出されました。

(SFRR Japan Young Investigator Award)

1. 中西郁夫(放医研)
2. 尾松達司(京都府立医科大学)
3. 井内良仁(山形大学)
4. 平田育大(京都府立医科大学)

SFRR Asia(上部組織)よりは下記の通りです。

(SFRR Asia Young Investigator Award)

若手ポスター発表者の中より、下記の通り2名に賞が授与されました。

1. Dr. Si-Young Kim (P118) Korea
2. Dr. Jiejie Hao (P87) China

◇◇◇ 関連学会 開催案内 ◇◇◇

以下の関連学会情報は予定を多く含みます。変更などが生じる可能性もありますので、詳細については、各主催団体にお問い合わせ下さい。また、学会HPにても随時情報を掲載予定です。

第62回日本酸化ストレス学会学術集会

1. 日 時: 2009(平成21)年6月11日(木)~12日(金)
2. 会 場: 九州大学医学部百年講堂
〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1番1号
TEL: 092-642-6257
<http://www.med.kyushu-u.ac.jp/100ko-do/>
3. 会 長: 内海英雄(九州大学・副学長/薬学研究院教授)

開催のご案内

第62回日本酸化ストレス学会学術集会のご案内を申し上げます。本学会は、平成21年6月11日(木)~12日(金)の会期で、九州大学・病院地区キャンパス内の医学部百年講堂にて開催されます。

第62回日本酸化ストレス学会学術集会では、がんや生活習慣病など近年急増している酸化ストレス性疾患の克服や国民の健康増進に向けて、「疾患を見据えた基礎研究」、「基礎研究を踏まえた臨床研究」をテーマに、医学・歯学・薬学・農学・工学・理学など異分野の研究者が自由闊達に討論できる会を目指します。

最先端の酸化ストレス研究者が一同に集う折角の機会でございますので、是非、本学術集会にご参加いただき、研究成果をご発表いただきますよう、ご案内申し上げます。

連絡先:

九州大学大学院薬学研究院機能分子解析学分野内
第62回日本酸化ストレス学会学術集会事務局
山田健一、安川圭司
〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1番1号
TEL: 092-642-6624, 6625; FAX: 092-642-6626
E-mail: yamada@pch.phar.kyushu-u.ac.jp
または yasukawa@pch.phar.kyushu-u.ac.jp

Gordon Conference on Oxidative Stress and

Date: March 8(Sun.) to 13(Fri.), 2009
Venue: Tuscany, Italy
Chairs: Prof. Holly Van Remmen, Prof. Kelvin J. A. Davies
<http://www.grc.org/programs.aspx?year=2009&program=oxidat>

第25回臨床フリーラジカル会議

会 期: 2009年4月4日(土)
会 場: メルパルク京都(JR京都駅前) 京都市下京区
当番世話人: 吉川敏一
(京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学)
問い合わせ先: 臨床フリーラジカル会議 事務局
京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学内
e-mail: ynaito@koto.kpu-m.ac.jp

4th Biennial SFRR Asia Meeting

Date: July 9(Thu.) to 12(Sun.), 2009
Venue: MERITUS Pelangi Beach Resort & SPA,
Langkawi, Malaysia
President: Dr. Kala Nesaretnam
Contact: <sarnesar@mpob.gov.my>

Free Radical School in Japan

Date: September 2(Wed.) to 6(Sun.), 2009
Venue: Takaragawa Spa, Gunma, Japan
President: President: Toshi Yoshikawa,
Vice President: Hideyuki Majima
Secretary-general: Yuji Naito, Hirofumi Matsui

5th joint Meeting of SFRR(A+J)

Date: December 1(Tues.) - 4(Fri.), 2009
Venue: Veterinary Science Conference Centre,
University of Sydney, Australia
<http://www.pathology.usyd.edu.au/sfrra2009.htm>

